

大英図書館所蔵西夏文「礼賛文」断片について —黒水城出土チベット語文献中の資料 K.K.II.0303.a—

荒川 慎太郎

【要旨】2016年、武内・井内により、大英図書館スタインコレクション、黒水城(カラホト)出土チベット文文献のカatalog *Tibetan Texts from Khara-khoto in The Stein Collection of the British library* が刊行された。この中に計 60 行ほどの西夏文の断片(カタログ番号 22, Site No. K.K.II.0303.a)が紛れ込んでいた。断片はタイトルを欠くものの阿弥陀礼賛の文であり、大英図書館所蔵黒水城出土のとある「西夏文」断片、ロシア東洋文献研究所所蔵黒水城出土のとある「漢文」断片に、内容が密接に関係することが分かった。テキスト全文の訳注とともに紹介し、各断片の関係を説明する。また、西夏語学上興味深い、本テキスト中の動詞接頭辞・接尾辞に関しても言及する。なお、付録として、同カタログ中の他の西夏文断片の訳注も示す*。

【キーワード】西夏語 西夏文字 西夏仏教 黒水城出土文献 浄土信仰

1 はじめに

2016年、武内・井内により、大英図書館スタインコレクション、黒水城(カラホト)出土チベット文文献のカatalog *Tibetan Texts from Khara-khoto in The Stein Collection of the British library* が刊行された(Takeuchi and Iuchi 2016)。この中に2点、断片とはいえ計 60 行ほどの西夏文の断片が紛れ込んでおり、筆者も内容比定に協力した。カタログでは紙幅の都合で「仏典」とのみ記したが、内容は阿弥陀礼賛の文であり、ロシア、東洋文献研究所所蔵黒水城出土「漢文」断片および大英図書館所蔵黒水城出土「西夏文」断片に、内容が密接に関係するものがあると分かったので、それぞれの断片の関係を説明する。また、西夏語学上興味深い、本テキスト中の動詞接頭辞・接尾辞の使用に関しても言及する。なお、付録として、同カタログ中の他の西夏文断片の訳注も示す。

2 大英図書館スタインコレクション黒水城出土西夏文断片

2.1 資料について

* 本研究は、科研費(基盤B課題番号 25580087)「「方向接辞」からみたチベット・ビルマ語系言語の諸相」(代表: 荒川慎太郎)の研究成果の一部である。また本資料をいち早く筆者に紹介してくださった武内紹人先生、井内真帆先生、資料の内容に関して貴重なご意見を頂戴した赤木崇敏先生、橘堂晃一先生に、そして本誌の査読者のお二方に、この場を借りて厚くお礼申し上げる。

当該の資料は、Takeuchi and Iuchi (2016)では p. 33 に書誌情報、p. 295 にモノクロ図版が挙げられる。西夏文字写本、おそらくは卷子本の末尾だろう。2 断片として整理されているが実際には接合する。K.K.II.0303.a として整理され、2 点は 22(10) recto, 22(10a) recto として図版が掲載される。前者は右下端を大きく欠き一部の文字が欠損する。後者はほぼ完全な形で残っており、左上端を若干欠くものの、全ての文字が残る。武内・井内の採寸によれば前者は 18.4 x 47.6 cm, 後者は 18.5 x 47.9 cm である。摩滅が無ければ、ほぼ同寸の一枚紙に記されたものと思われる。

紙の上段に「南無…」を少し大きく書き、その下に阿弥陀の別名などが列記される特異な体裁を持つ。この不規則な表記をしない場合は、1 行 17 字を原則とする。時に、通常 1 字の所に 2~3 字が記される場合(双行・複行)があり、通常より一回り小さい字であるため判読しがたい。

2.2 テキストと訳注

当該文献の西夏文、推定音、訳注を示す。体裁・内容的に a)~i)に分ける。内容や段ごとの区分に関係なく、行には通し番号を付ける。「南無」や「仏」など、他より一回り大きな字で、2 行分に相当するものについては、1 行目の方に通し番号を示した。最大で 6 段となる構造のため、何段目に当たるかも分かるようにした。

<凡例>

- 一、各行ごとに録文(西夏文)、推定音(荒川 2014 による)、訳¹注を挙げ、その性質上階層関係を示した。注では適宜、4 桁の『夏漢字典』の西夏文字コード番号を「李 1234」のように示した。
- 一、一部欠損するが推定できる文字は[]で、判読できないが 1 文字あるものは□で示した。
- 一、西夏語の 2 音節語「一切」など、改行によって誤読の恐れのある訳語はハイフン - を付けた。
- 一、原漢文の仏教語(漢字によってサンスクリットを音写した語)は、西夏語訳原文でも西夏文字で音写されている。これらの仏教語については、あえて意識や注を付けることはしなかった。ただし、他の仏教文献での仏教語の訳例や、音訳に用いられた西夏文字についての説明は、必要に応じて注に付した。
- 一、原文には語句が無いものの、文意の理解を助けるため筆者が補った箇所は()に入れて示した。ただし、助詞や呼びかけ「〜よ」にはいちいち()を用いなかった。
- 一、誤りには西夏文字・推定音ともに * を付し、正しいと思われるものを()で補った。
- 一、西夏語特有の言い回しは、いったん直訳(下線部)を示してから(=)で言い換えを行った。

¹ 本資料の西夏文はそれほど難解なものではないため、逐語訳は省略した。ただし 4 節では挙げることにした。

22(10) recto

a)

01

□ 𑖀 𑖀
 'bu: 'tshweu
 …を敬い礼する

02

𑖀 𑖀 𑖀 𑖀 𑖀 □
 ²zi: ²phyu 'soq 'zi:q' ²bu'
 最上三宝勝…

03

-2
 𑖀 𑖀 𑖀 𑖀
 'ldyIr ²aq 'a:r 'ti:q
 四十八願

04

-2
 𑖀 𑖀 𑖀 𑖀
 ²aq 'nyI' ²me: '²wi
 十二名号

05

-2 -3
 □□² 𑖀 𑖀 𑖀 𑖀 𑖀 𑖀 𑖀 [𑖀]
 'ngwI ²syu 'mi: 'bi: 'a? 'mi: 'thon 'tha
 五須弥光 阿弥陀[仏]

06

□□□

07

-2
 𑖀 𑖀 𑖀 𑖀
 'cheu: 'sin 'khi: ²zyonq
 六僧祇寿

08

-2
 𑖀 𑖀 𑖀 𑖀
 'ti:q ²me: '²ngo:r 'lhe?
 願名具足

-4

□□□ 𑖀
 ²zi:

…極-

-4

𑖀 𑖀 𑖀 𑖀
 ²ryeqr 'se ²lhe? 'wi'
 -楽浄土に生まれる

² 5, 6 行目の 1 段目は，もともと最下段にあった文字列が断片化し，誤って上部に貼り付けられた可能性もある。

-2

光寿具足

10

西方光壽無量仏

-3

東南方大須弥仏，須弥光仏，

-3

妙音仏，大焰記仏，須弥燈仏

-2

身相混ざって通る

-3

など、恒河沙、諸仏一切に(礼拝する)

-2

語音碍無し(=無碍)

-3

西北方壽無量仏，大光仏，大-

-2

〔南無，〕弥陀經典を

-3

-明仏、壊難仏、日生仏など恒河-

-2

讚現念護し、

-3

-沙，諸仏一切に(礼拝する)

- 17 -2 -3
 𐰇𐰆𐰏𐰏𐰏𐰏 𐰇𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏
²gu ¹thu' ¹tshe:' ²myeqr' ²phyu ²bi: ²ryeqr' ¹sha: ²phyu ¹tha ¹dza ¹tsiq' ¹zi:q' ¹fa:q' ¹fa:q' ²lyuq
 共に同じく説く者 上下方香上仏，雑色宝華華身
- 18 -3
 𐰇𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏
 ²sho: ¹tha ¹lo ¹phu ²ne: ¹tha ²me:' ¹bi: ¹tha ²tha
 清める仏，沙羅樹王仏，名光仏，達-
- 19 -3
 𐰇𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏
 ²mo ¹tha ²nI: ²kha:n ²kha: ¹miq' ¹ryur ¹tha ²ngo:r ²ngo:r ¹e:
 -磨³仏など恒河沙，諸仏一切に(礼拝する)
- c)
 20
 𐰇𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏
¹na ²mu: ²vi:q' ²ryeqr' ²lhi? ¹sI ²ryur ²kyeq ²aq' ¹nyI' ²phyu ¹ti:q' ¹tsiq' ²se:' ²nya ¹i:q' ¹bi: ¹tha ¹e:
 南無，東方月満世界十二上願色師，瑠璃金剛光仏に(礼拝する)
- 21
 𐰇𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏
¹na ²mu: ²zi: ²ryeqr' ²ryur ²kyeq ²zyonq' ¹mI: ¹pyuq' ¹tha ²ryur ²qyiq' ¹byo' ²jyan ²tse: ²lenq' ¹ywi ²nI: ²jyan
 南無，極楽世界寿無量仏，世音觀(=觀世音)菩薩，大主に到る(=勢至)菩-
- 22
 𐰇𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏
²tse: ¹byo' ²ldwIr ²ryeqr' ¹no" ²me:' ¹syen' ¹II ¹se' ¹tenq' ¹ryur ¹tha ²yu' ¹wi' ²ldwIr ²ryeqr' ¹no" ¹a? ¹mi:
 -薩觀經典，また名を業障浄取り除く諸仏前生經典，また阿弥-
- 23
 𐰇𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏𐰏
¹thon ¹tha ²ldwIr ²ryeqr' ¹no" ²lenq' ²chi: ¹mi: ¹thon ²ldwIr ²ryeqr' ¹no" ¹se' ²lhe? ²wo:n ²sha: ²nI: ¹mi: ¹thon
 -陀仏經典，また大(根)本弥陀經典，また浄土讃現などの弥陀

³ 𐰏𐰏 ²tha, 𐰇𐰏 ²mo とともに音写に使用される文字。

24

𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗

²ldwlr ²ryeqr ²ngo:r ²ngo:r ¹na ²waq ¹tsyer ²uq ¹e:

経典一切、深く広い法蔵に(礼拝する)

d)

25

𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗

¹na ²mu: ¹sha: ²ryeqr' ¹sl ²tshoq ¹nga ²kyeq ¹si: ¹zenq ²lhI: ²lhe? ¹onq ²u ¹soq ²zyonq

南無、十方遍満虚空界尽き、幾ばくかの塵、国土中の三寿

26

𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗

²biq ¹jo: ¹wenq ²kya? ¹kha ²lenq ²cha: ²waq ¹tha ¹fa:q ²sho: ²seu ¹ton ¹lo ¹si: ¹me:

穿つ⁴長い短い(=長短)劫の間、大徳広仏華嚴 sutalo 尽きる(こと)無し

27

𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗

¹tsyer ²ngyon ¹no" ¹tha: ²ryur ²kyeq ¹twuq ¹cyI' ²ngo:r ²ngo:r ²lenq ²wuq ²aq ¹nyI' ¹denq ²ldwlr

法海またその世界まっすぐ続く一切大乘十二部経

28

𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗

¹na ²waq ¹tsyer ²uq ¹e:

深く広い法蔵に(礼拝する)

e)

29

-2

-3

𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗

¹sha:q ¹tha ²mI' ²se: ²lenq ²syen ¹pyuq ¹man ¹su: ²jyan ²tse:

七仏本師大聖尊

文殊菩薩

30

-2

-3

𪛗 𪛗 𪛗 *𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗

¹na ²mu: ²qyiq ¹yu ¹ci:q ²gu: ²lenq ²ne: ¹wu: ²qyiq ¹byo' ²jyan ²tse:

南無 音を探し⁵苦しみを救う(=尋音救苦)大慈悲 音を観る(=観音)菩薩

⁴ 李 1020 「穿つ、鑽」。

⁵ 字形は 𪛗 ¹yu 「羞恥」(李 2514)だが、発音・字形の似る 𪛗 ¹yu 「探す」(李 5346)と誤ったか。

31	-2	-3	-5
	𐼁 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀
	¹ tha ² li? ¹ san ² mwe ² nI: ¹ i: ¹ shyo ¹ ywi ² nI: ² jyan ² tse:		² nga ¹ se: ¹ byu ¹ ti:q
	仏を念じ三昧愚衆を導く	勢至菩薩	我今帰依し
22(10a)recto			
32	-2	-3	-5
	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀
	¹ po ¹ lo ² mi: ² nI: ¹ tsyer ¹ tshe: ² ni:	¹ phi: ¹ mi: ¹ si: ¹ pyuq	¹ tshweu ¹ ti:q ² nga ¹ ryur
	よく波羅蜜など法を説く ⁶	意の尽きない(=無尽意)尊	礼し願う我は諸
33	-2	-3	-4
	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀	𐼁𐼀 ? 𐼁𐼀 𐼁𐼀	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀
	¹ na ² mu: ¹ leu ¹ wi: ² cyeq ² thiq ² lenq ² ne: ¹ pyuq ¹ zi:q' ² jyan ² tse:	² wI: ¹ swyI' ² ni: ² jyan ² tse: ² ri:r ² zyonq	
	南無, 一生補続する大慈尊	宝積菩薩	思慮せよ ⁸ 菩薩と寿
34	-2	-3	-5
	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀
	¹ tsiq' ² lyuq ² nI: ² sha: ¹ ci:q ¹ na	¹ tsiq' ² ne: ² jyan ² tse:	¹ jwa: ² le? ² ryeqr' ² zi:
	色身普現, 苦行深い	薬王菩薩	終わる西方極-
35	-2	-3	-5
	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀
	¹ wi:q ² lhI: ¹ onq ¹ thwu' ² mI: ¹ ne: ¹ tshe: ¹ tsiq' ² phyu ² jyan ² tse:		² ryeqr' ¹ se ² lhe? ¹ wi'
	味塵圈を通し本心を説く	薬上菩薩	-楽浄土に生まれる
36	-2	-3	
	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀	
	² ne: ¹ ne: ¹ san ² mwe ² nI: ¹ i: ² gu: ¹ mi: ² li ² jyan ² tse:		
	慈心三昧, 愚衆を救う	弥勒菩薩	
37	-2	-3	
	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀	𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀 𐼁𐼀	
	¹ byu ¹ ti:q ¹ mi: ¹ thon ² ne: ¹ wu: ¹ wI ² ngyon ² lwyu ² syen ¹ i:		
	帰依, 弥陀慈悲主	海集う聖衆(=海會聖衆)	

⁶ 字形が不鮮明だが, 可能的意味を表す助動詞 𐼁𐼀 ²ni: と推定した。

⁷ 2 文字目が不鮮明だが「宝積」か。「大宝積経」の訳例は例えば 𐼁𐼀 ¹zi:q' ¹cyon など(荒川 2014: 421)。

⁸ 動詞接頭辞 1 + 動詞 + 複数人称接辞の形式であるが, 文脈内容上は命令形などとするのが妥当だろう。麻 曉芳は, 𐼁𐼀-V-𐼁𐼀 構造の動詞句を「動詞の命令式 (imperative mood)」とし様々な例を紹介している。また, 羌語支のいくつかの命令式にもこれと並行的な現象が見られるという(麻 2016: 23)。

- f)
- 38 -3
 纒 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗
²der ¹ka ²jyan ²tse: ²aq ²ldwi:q' ²jyan ²tse: ²aq ²lyl' ¹tsheu
 覺等菩薩, 十地菩薩, 十鎮趣
- 39 -2 -3
 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗
¹sha: ²ryeqr' ¹soq ²zyonq ²jyan ²tse: ²aq ²ji? ²jyan ²tse: ²aq ¹ny'e: ²jyan ²tse: ²aq
 十方三寿 菩薩, 十業菩薩, 十住菩薩, 十-
- 40 -2 -3
 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗
¹na ²mu: ²tshoq ¹nga ²kyeq ¹si: ²jye ¹po ¹tsa ²ma ²ngaq ¹tsa ¹e:
 南無, 虚空界尽き -信菩薩摩訶薩に(礼拝する)
- 41 -2 -3
 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗
¹zenq ²lhI: ¹onq ²u ¹yeu ¹dyu ¹yeu ¹me: ¹ldyIr ¹tsheu ¹soq ¹ma: ¹no" ¹a?
 幾ばくかの塵圈中 学ぶ有る, 学ぶ無し, 四趣三果また阿-
- 42 -3
 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗
¹lo ¹han ¹pi: ²ci: ¹ka: ¹tha ²mi' ²syen ¹sin ²ngo:r ²ngo:r ¹e:
 -羅漢, 辟支迦仏, 賢聖僧一切に(礼拝する)
- g)
- 43 -4
 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗
¹leu ²qyiq ¹tshyl' ¹byu ¹leu ²tsyer2
 一音誦じるに随い一性
- 44 -4
 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗
¹nyl' ²qyiq ¹tshyl' ¹byu ¹nyl' ²dzwo:
 二音誦じるに随い二人
- 45 -4
 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗 𪛗
¹soq ²qyiq ¹tshyl' ¹byu ¹soq ¹do
 三音誦じるに随い三毒

46			-4		-6
			𐽀 𐽁 𐽂 𐽃 𐽄 𐽅		𐽆 𐽇 𐽈 𐽉
			¹ ldyIr ² qyiq ¹ tshyI' ¹ byu ¹ ldyIr ¹ lhyI'		² nga ¹ se: ¹ byu ¹ ti:q
			四音誦じるに随い四重い		我今帰依し
47	-2	-3	-4	-5	-6
𐽆 𐽇 𐽈 𐽉 𐽊 𐽋 𐽌 𐽍			𐽆 𐽇 𐽈 𐽉 𐽊 𐽋 𐽌 *𐽍 𐽎 𐽏 𐽐 𐽑 𐽒 𐽓 𐽔 𐽕		
¹ na ² mu: ² lenq ² ne: ² lenq ¹ wu: ² nga			¹ ngwI ² qyiq ¹ tshyI' ¹ byu ¹ ngwI ² ta? ¹ dzwe: ¹ II ² we: ¹ tenq ² dza:r ¹ tshweu ¹ ti:q ² nga ¹ ryur		
南無 大慈大悲 我			五音誦じるに随い五逆? 苦 ⁹ 業を取り除き滅せん 礼し願う我は諸		
48	-2		-4		-6
𐽆 𐽇 𐽈 𐽉 𐽊			𐽆 𐽇 𐽈 𐽉 𐽊 □		𐽆 𐽇 𐽈 𐽉
¹ a? ¹ mi: ¹ thon ¹ tha			¹ cheu: ² qyiq ¹ tshyI' ¹ byu ¹ cheu:		² jyan ² tse: ² ri:r ² zyonq
阿弥陀仏			六音誦じるに随い六?		菩薩と寿
49			-4		-6
			𐽆 𐽇 𐽈 𐽉 𐽊 𐽋		𐽆 𐽇 𐽈 𐽉
			¹ sha:q ² qyiq ¹ tshyI' ¹ byu ¹ sha:q ² t?		¹ jwa: ² le? ² ryeqr' ² zi:
			七音誦じるに随い七拒?		終わり, 西方極-
50			-4		-6
			𐽆 𐽇 𐽈 𐽉 𐽊 𐽋		𐽆 𐽇 𐽈 𐽉
			¹ a:r ² qyiq ¹ tshyI' ¹ byu ¹ a:r ¹ ngi:r		² ryeqr' ¹ se ² lhe? ¹ wi'
			八音誦じるに随い八禍		-楽浄土に生まれる
51			-4		
			𐽆 𐽇 𐽈 𐽉 𐽊 □		
			¹ gwyI' ² qyiq ¹ tshyI' ¹ byu ¹ gwyI'		
			九音誦じるに随い九?		
52			-4		
			𐽆 𐽇 𐽈 𐽉 𐽊 𐽋		
			² aq ² qyiq ¹ tshyI' ¹ byu ² aq ² cyIr		
			十音誦じるに随い十縛		

⁹ 本来𐽍「苦」(李 5566)とあるはずだが, 旁を誤り, 𐽍「罪」(李 5097)が記されている。

h)

53

-4

𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺

²qyiq ¹'byo' ¹'ywi ²nI: ¹'cyuq ²'wyeqr

観音勢至を守護せん(とする者)

54

-2

-3

-4

-5

𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺

𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺

¹na ²mu: ¹'le? ²'ryeqr' ¹bi: ¹tha

²qyiq ¹'byo' ¹'ywi ²nI: ²ngyon ²lwyu ¹i: ¹ti:q ²nga ²dza:r ²be: ²'nyeqr' ¹ke: ²le:

南無, 西方光

仏

観音勢至海集う衆(=海會衆)

願う我が滅する時, 面を見ん¹⁰

55

-2

-4

𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺

𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺

²zyonq ¹mI: ¹'pyuq

¹'a:r ²lenq ²jyan ²tse: ²ngyon ²lwyu ¹i:

寿無量

八大菩薩海會衆

i)

56

𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺

¹na ²mu: ¹'sha: ²'ryeqr' ²zi: ¹'soq ²byu ¹mi: ¹'si: ¹'soq ¹'zi:q' ¹'e: ¹'byu ¹ti:q ²wI: ¹'swyI' ¹'li? ²ni:

南無, 十方最三辺, 尽きない三宝に帰依し, 思慮して念ぜよ¹¹。

57

𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺

¹'ldyIr ²li:q ¹'soq ¹'dyu ¹'tsyer ²'kyeq ¹'i: ¹'wi' ²nI: ²zi: ¹'ti:q ¹'ryur ¹II ¹'tenq ¹'pha: ¹'kaq ¹'ti:q

四恩三有法界衆生など, 悉く願ひ, 諸業を取り除き断ち, 帰命し,

58

𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺 𐰽𐰺

²'ja:r ²'rer ²'dze:' ²gi: ²'phi: ²'kheu: ¹'shya ²'bi: ²nI: ¹'ldi:q ¹'tsyer ²'kyeq ¹'i: ¹'wi' ²'ngo:r ²'ngo:r ²'ri:r ¹'ne:' ¹'ti:q ²'ja:r ²'rer

懺悔し, 弟子, 比丘, 沙弥など, 及び法界衆生一切と心を帰し(=至心), 懺悔す

2.3 テキストの内容

a)~i)の内容を分かりやすく示すと次のようになる。上掲の和訳を接合し, 並列関係にある文を

¹⁰ 「～の面を見よう」のような表現は, 莫高窟の西夏文題記にも確認できる。

第 285 窟 𐰽𐰺𐰽𐰺𐰽𐰺𐰽𐰺 「仏の面を見よう」(荒川 2010, 莫 040)

莫高窟西夏文題記は落書きの類であり, 漢文などの翻訳ではない。つまりこの願望・希求形は西夏語において口語的なものだったことが推測できる。

¹¹ 33-3 同様な動詞句構造(𐰽𐰺-𐰽𐰺-𐰽𐰺)である。ここでも「複数人称への命令」と解釈して訳した。

{ ・ } に入れて理解しやすくした。

a)

…を敬い礼する。最上三宝勝…

[南無,] {四十八願・十二名号・五須弥光・六僧祇寿・願名具足・光寿具足} 阿弥陀[仏]…極楽浄土に生まれる。

b)

西方光寿無量仏

[南無,] 身相混ざって通る語音無碍弥陀經典を讃現念護し、共に同じく説く者、東南方大須弥仏、須弥光仏、妙音仏、大焰記仏、須弥燈仏など、恒河沙、諸仏一切に(礼拝する)。西北方寿無量仏、大光仏、大明仏、壊難仏、日生仏など恒河沙、諸仏一切に(礼拝する)。上下方香上仏雑色宝華華身清める仏、沙羅樹王仏、名光仏、達磨?仏など恒河沙、諸仏一切に(礼拝する)。

c)

南無、東方月満世界十二上願色師、瑠璃金剛光仏に(礼拝する)南無、極楽世界寿無量仏、觀世音菩薩、大勢至菩薩觀經經典、また名を業障淨取り除く諸仏前生經典、また阿弥陀仏經典、また大(根)本弥陀經典、また浄土讃現などの弥陀經典一切、深く広い法蔵に(礼拝する)。

d)

南無、十方遍満虚空界尽き、幾ばくかの塵、国土中の三寿穿つ長短劫の間、大徳広仏華嚴 sutalo 尽きる(こと)無し法海またその世界まっすぐ続く一切大乘十二部經、深く広い法蔵に(礼拝する)。

e)

南無、{七仏本師大聖尊 文殊菩薩・尋音救苦大慈悲 觀音菩薩・仏を念じ三昧愚衆を導く 勢至菩薩・よく波羅蜜など法を説く 無尽意尊・一生補続する大慈尊 宝積?菩薩・色身普現苦行深い 藥王菩薩・味塵圈を通し本心を説く 藥上菩薩・慈心三昧愚衆を救う 弥勒菩薩・帰依弥陀慈悲主 海會聖衆} を憂いて、我今帰依し礼し願う我は諸菩薩と寿終わる西方極楽浄土に生まれる。

f)

南無、十方三寿虚空界尽き幾ばくかの塵圈中、覺等菩薩、十地菩薩、十鎮趣菩薩、十業菩薩、十住菩薩、十信菩薩摩訶薩に(礼拝する)。学ぶ有る、学ぶ無し、四趣三果また阿羅漢、辟支迦仏、賢聖僧一切に(礼拝する)。

g)

南無、大慈大悲阿弥陀仏。我、{一音誦じるに随い一性・二音誦じるに随い二人・三音誦じるに随い三毒・四音誦じるに随い四重い・五音誦じるに随い五逆?・六音誦じるに随い六?・七音誦じるに随い七拒?・八音誦じるに随い八禍・九音誦じるに随い九?・十音誦じるに随い十縛} という苦業を取り除き滅せん。我今帰依し礼し願う我は諸菩薩と寿終わり、西方極楽浄土に生まれる。

h)

南無、西方光寿無量仏、{觀音勢至を守護せん者・觀音勢至海會衆・八大菩薩海會衆} に願う、我が

滅する時、面を見ん。

i)

南無，十方最三辺，尽きない三宝に帰依し，思慮して念じた。四恩三有法界衆生など，悉く願い，諸業を取り除き断ち，帰命し，懺悔し，弟子，比丘，沙弥など，及び法界衆生一切と至心，懺悔す。

総じて本資料中には，阿弥陀諸仏，阿弥陀經典などへの礼賛が連ねられている。末尾に題目は残らないが「阿弥陀礼賛文」のような題名を筆者は想定する。

3 各種断片との関係

3.1 ロシア所蔵黒水城出土漢文断片との関係

一方，同じ黒水城出土漢文断片に，興味深い資料が存在する。『俄蔵黒水城文献』漢文部分に
 俄 TK300 願文等 (2-1, 2)¹²

と整理される断片が残る。刊本の一部のようであるが首尾を欠く上題名・略題も残らないため，内容比定されず，「願文等」とされている。内容的には阿弥陀仏を礼賛する句が列挙されており，浄土信仰に関するものと考えられる。残存する断片は内容・体裁から次の5部に分けられる。すなわち，

A: 1～7行目 6つの異名を持つ阿弥陀仏礼賛

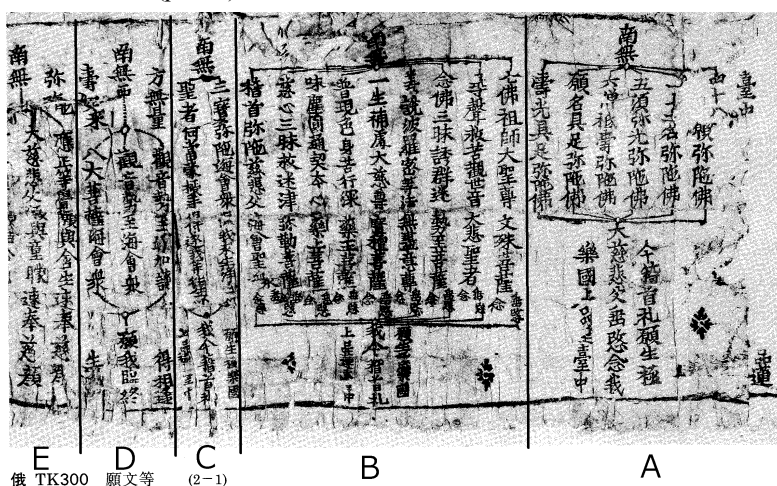
B: 8～16行目 菩薩らの礼賛

C: 17, 18行目 三宝阿弥陀海會衆らの礼賛

D: 19～21行目 海會衆らの礼賛

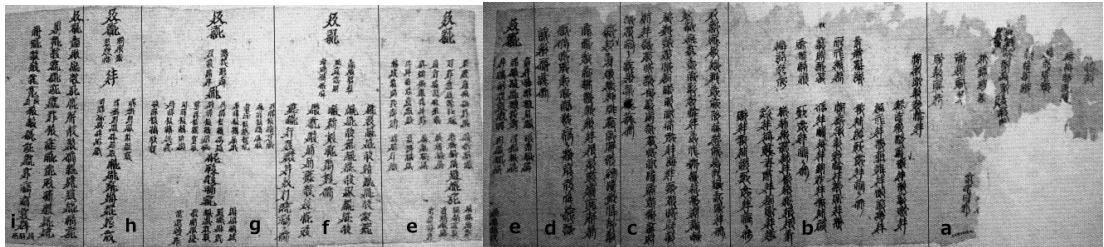
E: 22～24行目 大慈悲ら礼賛

である。『俄蔵黒水城文献』(p. 387)を加工した図で示すと以下のようになる。



¹² 写真は『俄蔵黒水城文献』4巻, pp. 387-388 に，書誌情報は同6巻附録・序録, p. 36 に挙がる。

このうち、A, B, D の順で西夏文「阿弥陀礼賛文」に同様の件が見られるのである。



(画像は Takeuchi and Iuchi 2016: 295 を筆者が加工したもの)

漢文版の A, B, D はそれぞれ、西夏文版の a), e), h) に順番に対応する。仏名などはほぼ完全に対一対一で対応する。西夏文はこの漢文を翻訳したものではないが、漢文版と西夏文版のオリジナルであった漢文礼賛文 X は同じものであった公算が高い。X から「傘上構造」の部分だけを抽出したものが漢文版であり、全てを西夏語訳したものが西夏文版であろうと、筆者は推測する。

3.2 大英図書館所蔵黒水城出土西夏文断片との関係

3.2.1 大英図書館所蔵断片について

図録『英蔵黒水城文献』中の西夏文断片にも興味深い資料が存在した。Or. 12380-2037 (K.K.III.225.b) 「九卷仏名誦」¹³とされる資料がそれである。テキストと訳注でも示すことにするが、実はこの題名(漢語訳)には問題がある。1 文字目の上部が欠けるため、𐰆 'gwyI' 「九」としているようだが、おそらく𐰆²phyu 「上」とするのが妥当であろう。

図版から確認できる限り、本資料は冒頭部分が残っているらしい。寸法など、詳細が不明な点が惜しいものの、体裁・表現は西夏文「阿弥陀礼賛文」に非常に似ている。ただし本資料は「阿弥陀」「浄土」を直接礼賛する部分は残らないため、両者が直接関係するとまでは言い切れない。

3.2.2 テキストと訳注

この資料についても前掲の凡例に従い、テキスト、訳注を示すことにする。

1

𐰆 𐰆 𐰆 𐰆 𐰆
²phyu ³L? ¹tha ²me! ¹tshyI' ²ldeu
 上巻仏名を誦するべし

¹³ 写真は『英蔵黒水城文献』2 巻, p. 309 に掲載される。

— 208 —

- 9 -3
□□□ 𐰇 𐰆 𐰇 𐰇 □□ 𐰇
 ²kyeq ¹wI ¹phi: ²ba ¹tha
…界主毘？播？…仏
- 10 -3
□□□ 𐰇 𐰆 𐰇 𐰇 𐰇 𐰇 𐰇 𐰇
 ²kyeq ¹wI ²shI: ¹ka: ²mo ²ni: ¹tha
…界主，釈迦牟尼仏

4 文法面の特徴

4.1 「接頭辞 1」の𐰇 ²wI: と複数接辞の𐰇 ²ni:

当該資料の西夏語表現においても，興味深い特徴が観察できる。動詞の接頭辞と接尾辞である。西夏語の動詞接頭辞には，方向乃至完了態を表わす「接頭辞 1」と，願望・希求を表わす「接頭辞 2」があると言われる。

<参考> 西田(1989)による動詞接頭辞のセット¹⁷

来源となる方向	接頭辞 1	接頭辞 2
「上の方に向かって」	𐰇 𐰇 ¹ a?-	𐰇 ¹ e:-
「下の方に向かって」	𐰇 𐰇 ¹ na:-	𐰇 ² ne:-
「こちらの方へ(話者の方に向かって)」	𐰇 𐰇 ¹ kI:-	𐰇 ¹ ke:-
「あちらの方へ(話者から離れて)」	𐰇 𐰇 ² wI:-	𐰇 ² we:-
「水源の方へ(内側に向かって)」	𐰇 𐰇 ² da:-	𐰇 ² de:-
「下流の方へ(外側に向かって)」	𐰇 𐰇 ² rI:-	𐰇 ² ryeqr'-

まず，「接頭辞 1」の𐰇 ²wI: と複数接尾辞の𐰇 ²ni:¹⁸ が共起するパターンが 2 回確認できる。

(1) l. 33-4

𐰇 𐰇 𐰇
²wI: ¹swyI' ²ni:
Prefl 思慮 Sp
思慮せよ

¹⁷ 接頭辞 1 と接頭辞 2 の音対応，派生関係については西田(1989: 419-420)参照。

¹⁸ この接尾辞と用例に関しては荒川(2014: 158-159)も参照。

(2) l. 56

散 𐰽𐰚 𐰽𐰚 𐰽𐰚 𐰽𐰚 𐰽𐰚 𐰽𐰚 𐰽𐰚
¹soq ¹zi:q' ¹e: ¹byu ¹ti:q ²wI: ¹swyI' ³li? ²ni:
 三 宝 に 帰依 Prefl 思慮 念 Sp
 三宝に帰依し、思慮して念じよ。

これまでの西夏語学的な解釈では、「接頭辞 1」𐰽𐰚 ²wI: は「方向指示ないし動詞完了態」を表すというものであった。しかし訳注(注 8)に示したように、ここではいずれも不適當である。文脈を見る限り、複数接尾辞と組み合わさった動詞句全体で、「接尾辞で示される複数形の人物」への「命令形」のように解釈するのが適切に思える。いくつか仮説を提示することは容易である。特に蓋然性を考慮せずに羅列するならば、以下のようになる。

- 1) 接頭辞 1 𐰽𐰚 ²wI: は動詞「思慮する」と結びつく形が定着し、方向指示も動詞完了態も示す機能を失ってしまった。
- 2) 接頭辞 1 𐰽𐰚 ²wI: は方向指示「向こうの方に」という機能を残しており、日本語的には不自然だが「遠くに向かって・思慮する」のような表現である。
- 3) この動詞句で「動詞語幹+接尾辞」とともに使われる接頭辞は、接頭辞 1 𐰽𐰚 ²wI: と音形が同じだが、本来は別の機能を有する接頭辞である。(このように、同じ西夏文字、つまり同音でありながら別機能を持つ接頭辞は他にも存在する。例えば、𐰽𐰚 ¹a? は「方向指示ないし動詞完了態」を表す他、「疑問文」にも使われる。意味的に同じ接頭辞が分岐したとは考えにくい。これは同音異義語が同じ文字で表記されただけと考えたい)

ただ、この少ない例からは判断できず、筆者もこれまであまり礼賛文・祈願文の類を研究対象としなかったため知識が少ない。今後、例文の収集を継続したい。

4.2 接頭辞 2 と共起する動詞

次にいくつかの接頭辞 2 による「願望・希求」の表現である。例えば以下のようなものがある。

(3) l. 47-5

𐰽𐰚 𐰽𐰚 𐰽𐰚 𐰽𐰚 𐰽𐰚
¹dzwe: ¹ll ²we: ¹tenq ²dza:r
 苦 業 Pref2 取り除く 滅する
 苦業を取り除き滅せん

(4) l. 54-5

𐵄𐵆𐵇𐵈𐵉𐵊𐵋𐵌𐵍𐵎𐵏𐵐𐵑𐵒𐵓𐵔𐵕𐵖𐵗𐵘𐵙𐵚𐵛𐵜𐵝𐵞𐵟𐵠𐵡𐵢𐵣𐵤𐵥𐵦𐵧𐵨𐵩𐵪𐵫𐵬𐵭𐵮𐵯𐵰𐵱𐵲𐵳𐵴𐵵𐵶𐵷𐵸𐵹𐵺𐵻𐵼𐵽𐵾𐵿𐶀𐶁𐶂𐶃𐶄𐶅𐶆𐶇𐶈𐶉𐶊𐶋𐶌𐶍𐶎𐶏𐶐𐶑𐶒𐶓𐶔𐶕𐶖𐶗𐶘𐶙𐶚𐶛𐶜𐶝𐶞𐶟𐶠𐶡𐶢𐶣𐶤𐶥𐶦𐶧𐶨𐶩𐶪𐶫𐶬𐶭𐶮𐶯𐶰𐶱𐶲𐶳𐶴𐶵𐶶𐶷𐶸𐶹𐶺𐶻𐶼𐶽𐶾𐶿𐷀𐷁𐷂𐷃𐷄𐷅𐷆𐷇𐷈𐷉𐷊𐷋𐷌𐷍𐷎𐷏𐷐𐷑𐷒𐷓𐷔𐷕𐷖𐷗𐷘𐷙𐷚𐷛𐷜𐷝𐷞𐷟𐷠𐷡𐷢𐷣𐷤𐷥𐷦𐷧𐷨𐷩𐷪𐷫𐷬𐷭𐷮𐷯𐷰𐷱𐷲𐷳𐷴𐷵𐷶𐷷𐷸𐷹𐷺𐷻𐷼𐷽𐷾𐷿𐸀𐸁𐸂𐸃𐸄𐸅𐸆𐸇𐸈𐸉𐸊𐸋𐸌𐸍𐸎𐸏𐸐𐸑𐸒𐸓𐸔𐸕𐸖𐸗𐸘𐸙𐸚𐸛𐸜𐸝𐸞𐸟𐸠𐸡𐸢𐸣𐸤𐸥𐸦𐸧𐸨𐸩𐸪𐸫𐸬𐸭𐸮𐸯𐸰𐸱𐸲𐸳𐸴𐸵𐸶𐸷𐸸𐸹𐸺𐸻𐸼𐸽𐸾𐸿𐹀𐹁𐹂𐹃𐹄𐹅𐹆𐹇𐹈𐹉𐹊𐹋𐹌𐹍𐹎𐹏𐹐𐹑𐹒𐹓𐹔𐹕𐹖𐹗𐹘𐹙𐹚𐹛𐹜𐹝𐹞𐹟𐹠𐹡𐹢𐹣𐹤𐹥𐹦𐹧𐹨𐹩𐹪𐹫𐹬𐹭𐹮𐹯𐹰𐹱𐹲𐹳𐹴𐹵𐹶𐹷𐹸𐹹𐹺𐹻𐹼𐹽𐹾𐹿𐺀𐺁𐺂𐺃𐺄𐺅𐺆𐺇𐺈𐺉𐺊𐺋𐺌𐺍𐺎𐺏𐺐𐺑𐺒𐺓𐺔𐺕𐺖𐺗𐺘𐺙𐺚𐺛𐺜𐺝𐺞𐺟𐺠𐺡𐺢𐺣𐺤𐺥𐺦𐺧𐺨𐺩𐺪𐺫𐺬𐺭𐺮𐺯𐺰𐺱𐺲𐺳𐺴𐺵𐺶𐺷𐺸𐺹𐺺𐺻𐺼𐺽𐺾𐺿𐻀𐻁𐻂𐻃𐻄𐻅𐻆𐻇𐻈𐻉𐻊𐻋𐻌𐻍𐻎𐻏𐻐𐻑𐻒𐻓𐻔𐻕𐻖𐻗𐻘𐻙𐻚𐻛𐻜𐻝𐻞𐻟𐻠𐻡𐻢𐻣𐻤𐻥𐻦𐻧𐻨𐻩𐻪𐻫𐻬𐻭𐻮𐻯𐻰𐻱𐻲𐻳𐻴𐻵𐻶𐻷𐻸𐻹𐻺𐻻𐻼𐻽𐻾𐻿𐼀𐼁𐼂𐼃𐼄𐼅𐼆𐼇𐼈𐼉𐼊𐼋𐼌𐼍𐼎𐼏𐼐𐼑𐼒𐼓𐼔𐼕𐼖𐼗𐼘𐼙𐼚𐼛𐼜𐼝𐼞𐼟𐼠𐼡𐼢𐼣𐼤𐼥𐼦𐼧𐼨𐼩𐼪𐼫𐼬𐼭𐼮𐼯𐼰𐼱𐼲𐼳𐼴𐼵𐼶𐼷𐼸𐼹𐼺𐼻𐼼𐼽𐼾𐼿𐽀𐽁𐽂𐽃𐽄𐽅𐽆𐽇𐽋𐽍𐽎𐽏𐽐𐽈𐽉𐽊𐽌𐽑𐽒𐽓𐽔𐽕𐽖𐽗𐽘𐽙𐽚𐽛𐽜𐽝𐽞𐽟𐽠𐽡𐽢𐽣𐽤𐽥𐽦𐽧𐽨𐽩𐽪𐽫𐽬𐽭𐽮𐽯𐽰𐽱𐽲𐽳𐽴𐽵𐽶𐽷𐽸𐽹𐽺𐽻𐽼𐽽𐽾𐽿𐾀𐾁𐾃𐾅𐾂𐾄𐾆𐾇𐾈𐾉𐾊𐾋𐾌𐾍𐾎𐾏𐾐𐾑𐾒𐾓𐾔𐾕𐾖𐾗𐾘𐾙𐾚𐾛𐾜𐾝𐾞𐾟𐾠𐾡𐾢𐾣𐾤𐾥𐾦𐾧𐾨𐾩𐾪𐾫𐾬𐾭𐾮𐾯𐾰𐾱𐾲𐾳𐾴𐾵𐾶𐾷𐾸𐾹𐾺𐾻𐾼𐾽𐾾𐾿𐿀𐿁𐿂𐿃𐿄𐿅𐿆𐿇𐿈𐿉𐿊𐿋𐿌𐿍𐿎𐿏𐿐𐿑𐿒𐿓𐿔𐿕𐿖𐿗𐿘𐿙𐿚𐿛𐿜𐿝𐿞𐿟𐿠𐿡𐿢𐿣𐿤𐿥𐿦𐿧𐿨𐿩𐿪𐿫𐿬𐿭𐿮𐿯𐿰𐿱𐿲𐿳𐿴𐿵𐿶𐿷𐿸𐿹𐿺𐿻𐿼𐿽𐿾𐿿𐾀𐾁𐾃𐾅𐾂𐾄𐾆𐾇𐾈𐾉𐾊𐾋𐾌𐾍𐾎𐾏𐾐𐾑𐾒𐾓𐾔𐾕𐾖𐾗𐾘𐾙𐾚𐾛𐾜𐾝𐾞𐾟𐾠𐾡𐾢𐾣𐾤𐾥𐾦𐾧𐾨𐾩𐾪𐾫𐾬𐾭𐾮𐾯𐾰𐾱𐾲𐾳𐾴𐾵𐾶𐾷𐾸𐾹𐾺𐾻𐾼𐾽𐾾𐾿𐿀𐿁𐿂𐿃𐿄𐿅𐿆𐿇𐿈𐿉𐿊𐿋𐿌𐿍𐿎𐿏𐿐𐿑𐿒𐿓𐿔𐿕𐿖𐿗𐿘𐿙𐿚𐿛𐿜𐿝𐿞𐿟𐿠𐿡𐿢𐿣𐿤𐿥𐿦𐿧𐿨𐿩𐿪𐿫𐿬𐿭𐿮𐿯𐿰𐿱𐿲𐿳𐿴𐿵𐿶𐿷𐿸𐿹𐿺𐿻𐿼𐿽𐿾𐿿

²nga ²dza:r ²be: ²nyeqr' ¹ke: ²le:

我 滅する 時 面 Pref2 見る

我が滅する時、面を見ん

筆者はかつて、西夏語の接頭辞 1, 2 とどのような動詞が共起しやすいか調査した(Arakawa 2012)。これは『天盛禁令』という西夏法典を材料とした。上記の接頭辞に関わる、「共起しやすい動詞」を抽出すると、次のようになる。

𐵇 ²we:- (2W): send, go out, take off...

𐵇 ¹ke:- (2K): look at, measure...

本資料は仏典であるが、接頭辞と共起する動詞の關係に類似する傾向が得られたのは興味深い。また、注に示したように、莫高窟の西夏文題記にはまさに、「面を見ん」という表現が、この接頭辞を伴う形で確認できる。西夏語の動詞句構造を考察する上でも興味深い例文が提供されているといえよう。

5 おわりに

『俄蔵黒水城文献』漢文断片の整理者と同じように、筆者もそれに類する本西夏文断片資料の通名を明らかにできなかったが、内容的に「阿弥陀礼賛文」とでもすべきものである。西夏文、そして漢文で、関連のある礼賛文が存在した事実は、西夏ないし黒水城地域の浄土信仰の一端を知ろううえで貴重な資料であることは疑いない。今後同種の資料の調査も継続したい。

略号・図録略称

Pref1 : 動詞接頭辞 1, Pref2 : 動詞接頭辞 2, Sp : 複数接尾辞

『俄蔵黒水城文献』:『俄羅斯科学院東方研究所聖彼得堡分所蔵黒水城文献』,『英蔵黒水城文献』:『英国国家図書館蔵黒水城文献』

参考文献

荒川慎太郎(2010)「莫高窟・榆林窟・東千仏洞西夏文題記訳注」荒川慎太郎(編)『平成 19～21 年度科学研究費補助金研究成果報告書「西夏時代の河西地域における歴史・言語・文化の諸相に関する研究」』: 45-106.

_____(2014)『西夏文金剛經の研究』京都: 松香堂.

- 李範文編著(1997)『夏漢字典』北京: 中国社会科学出版社(2008 修訂本 同出版社).
- 麻曉芳(2016)「西夏文《善住意天子会・破魔品》考釈」『西夏研究』2016 年第 3 期(総 27 期): 13-24.
- 西田龍雄(1989)「西夏語」亀井孝ほか(編)『言語学大辞典』中巻, 東京: 三省堂: 408-429{西田(2012)に修訂再録}.
- _____(2012)『西夏語研究新論』京都: 松香堂.
- 俄羅斯科学院東方研究所聖彼得堡分所・中国社会科学院民族研究所・上海古籍出版社編(1997, 2000)『俄羅斯科学院東方研究所聖彼得堡分所蔵黒水城文献』4, 6, 上海: 上海古籍出版社.
- 西北第二民族学院・上海古籍出版社・英国国家図書館(2005)『英国国家図書館蔵黒水城文献』2, 上海: 上海古籍出版社.
- Arakawa, Shintaro (2012) On the Tangut Verb Prefixes in ‘Tiansheng Code’, In *Тангуты в Центральной Азии: Сборник статей в честь 80-летия профессора Е. И. Кычанова*. Москва: Издательская фирма «Восточная литература», 58-71.
- Takeuchi, Tsuguhito and Maho Iuchi (2016) *Tibetan Texts from Khara-khoto in The Stein Collection of the British library* (Studies in Old Tibetan Texts from Central Asia, vol. 2), Tokyo: The Toyo Bunko.

付録

Takeuchi and Iuchi (2016)には本資料以外にも、わずかな分量・字数ではあるものの、西夏文字資料が混在している。筆者が西夏文字と認定できたものは計7点である。書体や判読できた内容から、本資料との関係は認めがたいが、簡単に紹介したい。

以下、断片の写真図版が挙がる頁数、資料番号、複数断片がある時はその数を示す。

p. 275, 1recto (2 断片)

チベット文、西夏文、ほぼ白紙の断片も含めて、16断片の写真が挙がる。掲載頁の右上の1点、中央やや左下寄りの1点はそれぞれやや草書に近い書体の西夏文断片である。それぞれ文字と大きさが似ているので、もともとは同じ文献が断片化したものかも知れない。前者を 1rectoTang.1 (1行5文字)、後者を 1rectoTang.2 (1行3文字)とする。

1rectoTang.1

□ 𐵓 □□¹⁹□

²rir

? 吟(族姓)...

1rectoTang.2

□□ 𐵓?

¹sho

...発する?(生む?)

p. 297, 24verso (2 断片)

3断片の写真が挙がる。チベット文の裏面に西夏文が確認できるもののかなり崩した草書体の上文字が小さいので判読が難しい。掲載頁の右半分の大きい1点、左上の1点は、それぞれ文字と大きさが似ているので、もともとは同じ文献が断片化したものかも知れない。前者を 24versoTang.1 (7行)、後者を 24versoTang.2 (3行)とする。

前者3行目上部に 𐵓𐵓 「～宝をいう」、4行目末尾に 𐵓𐵓 「経典」のように読める文字があるため、筆者は仏典の一部ではないかと推測する。

p. 298, 25verso

上下左右が激しく断裂したチベット文の裏面に西夏文が確認できるものの、これもかなり崩れた草書体の上文字が小さいので判読し難い。5行の西夏文が認められ、このうち一番右の西夏文の右

¹⁹ 偏は𐵓「皮へん」の崩し字か。

側は数センチ余白のようにになっている。あるいは1行目は文献の題名、見出しなどかもしれない。確実に判読できたのは動詞接頭辞、指示代名詞、格標識などで、文献の内容も判然としないが、テキストも以下に示す。

25verso l.1

□□□□□ 𐽀 𐽁 □ 𐽂
¹a? ²shyonq ²ngwu

…覆った? ²⁰である。 ²¹

25verso l.2

□ 𐽃 □□ 𐽄 □ 𐽅 □
¹pyuq ¹ngur ²wi

…威…蘊…為す…

25verso l.3

□□□□□□□□□□

25verso l.4

□□□□□□ 𐽆 □□□□□
¹e:

…の?(を?)…

25verso l.5

□ 𐽇 □ 𐽈 □
¹kha ²thI:

…間…この²²…

p. 367, 96verso

チベット文断片は左右が断裂しており、右端に西夏文字が3文字(完全に残るのは中央の1文字のみ)確認できる。𐽋𐽉𐽊□「如来…」の「来」の字か。

96verso Tang.

𐽌 𐽍 □
¹myor ¹ldenq

現に来る(=如来)…

²⁰ 完了態を表わす動詞接頭辞 𐽀 ¹a? と動詞「覆う」𐽁 ²shyonq(李 5872)ととったが、直後の1文字が分からない。

²¹ コピュラ動詞 𐽂 ²ngwu 「～である」の下は、紙は残るが文字は無いか。

²² この指示代名詞の上に1文字分の空白あるか。

p. 403, 133verso (2 断片)

チベット文、西夏文、ほぼ白紙の断片も含めて、24 断片の写真が挙がる。Takeuchi and Iuchi (2016: 82)では「1, 2 字の西夏文字を含む 3 断片」とするが、ここでは筆者が確認し得た 2 点のみ紹介する。掲載頁の中央やや右下寄りの 1 点とその下の 1 点(最下段)である。それぞれ楷書で判読は容易である。それぞれ文字の大きさ・太さが異なるので、同じ文献が断片化した可能性は低い。前者を 133versoTang.1 (3 行), 後者を 133versoTang.2 (2 行)とする。

133versoTang.1, 1.1

帝 ☐

²ngo:r

一切²³...

133versoTang.1, 1.2

□ 嘔 噦

¹mi: ²neu'

…不善…

133versoTang.1, 1.3

☐

?

133versoTang.2, 1.1

□ 續

 ${}^2\text{Zi:}$

…最？

133versoTang.2, 1.2

編號 日期

¹chyu ¹syen

(衆)生²⁴(の)業

²³ 禰禰 ²ngo:r ²ngo:r 「一切」の2文字目と読んだ。

²⁴ 𪛗𪛗 ²jyan ¹chyu 「衆生」の2文字目と読んだ。

On the Tangut fragments “praising Buddha” in the British Library:
No. K.K.II.0303.a in the Tibetan texts from Khara-khoto in the Stein Collection

ARAKAWA Shintaro

Abstract

In 2016, Prof. Takeuchi Tsuguhito and Dr. Iuchi Maho published a large volume of the catalogue entitled *Tibetan Texts from Khara-khoto in The Stein Collection of the British library* (Studies in Old Tibetan Texts from Central Asia, vol. 2, Tokyo: The Toyo Bunko). In the volume, there are two Tangut fragments containing about 60 lines (Catalogue No. 22, Site No. K.K.II.0303.a.).

We identify them as one of the admiration for the Amitabha Buddhas without a title. The fragments have a strong relationship to one 'Tangut' fragment from Khara-khoto in the Stein Collection of the British Library and one 'Chinese' fragment from Khara-khoto in the Kozlov Collection of the Institute of Oriental Manuscripts in Russia.

In this study, we introduce the contents of the fragments with Tangut texts, translations, and comments and describe the relationship between those fragments. In addition, we deal with the Tangut verb-prefixes and suffixes in the texts which have unique features from the viewpoint of Tangut grammar.

In appendix, we also provides the texts, translations, and comments of other small Tangut fragments in the volume.

受領日 2016年9月26日
受理日 2016年12月26日